

社会科学習指導案

日 時 平成18年11月15日(水) 5校時
学 級 2年1組(男18名女18名計36名)
授業者 中川和哉

- 1 単元名 第1章 さまざまな面から見た日本 「3 世界と日本の人口」
- 2 単元について

(1) 教材観

本単元は学習指導要領の大項目「世界と比べてみた日本」の中の小項目「人口から見た日本の地域的特色」に含まれる内容である。「世界と日本の人口」の小単元は、人口という視点を通して、世界的視野から見た日本の人口や人口構成の特色について調べ、それに伴う課題や、人口分布の偏りから生じる課題について学習する。

世界の人口は20世紀初頭には約20億人弱であったものが、1999年には60億人に達している。特に、1960年以降の急激な増加は、20世紀が「人口爆発」の世紀と言われる所以であろう。地域別では、アジア・アフリカの発展途上国での増加が著しく、国連の推計では2050年には世界人口は約89億人に達するものとも見込まれている。人口の急増は、食糧不足、環境の破壊、資源の枯渇など人々の生活に計り知れない影響を与えることとなる。このような中で、先進国や一部の発展途上国では出生率の低下による少子化現象が進行している。また、生活の質の向上や医療技術の進歩などによって、寿命が延び、先進諸国のみならず発展途上国間でも人口の高齢化が顕在化してきている。

日本は、約1億2700万人(「世界人口年鑑」2001)の人口をもつ世界第10位の国である。高度経済成長以降、環境衛生の向上・医療技術の進歩によって、乳児死亡率の低下・平均寿命の伸びが続き、現在世界一の長寿国ともなっている。しかし、高学歴社会・結婚年齢の上昇・養育費の増大・育児施設の不備等の社会条件により少子化が進行しているため、総人口に占める65歳以上の人口の割合が高い高齢社会を迎えている。今後、労働人口の減少や社会保障負担の増加等の問題に対する新たな対策が求められる。さらに、国内においては人口の分布に偏りが見られる。都市人口が78%(1996年)を占め、特に三大都市圏及び地方中枢都市周辺への人口集中が著しい。そのため過密地域と過疎地域が生じ、それぞれにおいて問題点が顕著であり、各地域ごとに様々な対策を講じようとしている現状がある。

以上のことから、人口という視点を通し世界の国々や日本が直面する課題を学習することは、少子高齢化が進行する現代社会の形成者として生きていく生徒たちにとって重要である。

(2) 生徒観

事前の意識調査によると、半数以上の生徒が教科に対する苦手意識をもっており、6割が地理的分野を不得意としている。全体的に落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいるが、授業中の挙手や発言をする生徒が固定化している。社会的事象に対する関心・意欲は、上位と下位の開きは余りないが、理解力や思考力における上位と下位との開きが大きい。また、学習の定着が不十分であることから、集中力に欠ける生徒が数名見られる。ただ、そういった生徒たちの中にも教師側からの声かけや助言により、一緒に取り組もうとする姿勢が見られる。それぞれの個に配慮しながら、指導の工夫を図っていきたい。

(3) 指導観

本単元は中学校社会科地理的分野の日本地理に関する学習の中心的な内容である。系統的な視点を取り入れつつ、「自然環境」「生活・文化」「人口」「資源や産業」「地域間の結びつき」の5つの小項目から日本の地域的特色を考察させていく。教える内容をその後の学習や生活に必要な最小限の基礎的・基本的内容に厳選しつつ、厳選した基礎的・基本的内容については、繰り返し学習させるなどして確実に習得させていきたい。

社会的事象としての「人口」は、公民的分野の学習との関連も深く、地理的分野の学習の基礎・基本ともなる内容であるため、「さまざまな面から見た日本」の学習の中では、重要な位置を占めている。世界的視野から見て、日本は人口が多く、また、人口密度が高く、平均寿命が長いという特色と、少子化や高齢化に伴う課題を理解させるとともに、国内では平野部に多くの人口が集中し、過密・過疎地域が見られることを大観させていきたい。

3 単元の指導目標及び評価計画

(1) 単元の指導目標

「世界と日本の人口」において、世界的視野から日本を一つの地域として見たときの特色をとらえる活動と、国内の地域差をおおまかにとらえる活動を通して、わが国を「人口」という視点からとらえたときの特色を大観することができる。

「世界と日本の人口」において、地域間の比較や関連づけの中から類似性や傾向性に着目して明らかにするとともに、地域的特色を明らかにする調べ方や学び方を身につけることができる。

「日本の人口」についての特色を事例地域を通して具体的に考察することができる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観 点 別 評 価 規 準			
		社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象について の知識・理解
1	世界の人口分布とその 推移 ・世界の人口分布と 人口爆発 ・人口増加の問題点	世界の人口分布や 推移から人口急増の 原因や問題点、抑制 策などについて関心 を高め、追究してい る。	世界人口の急増の 要因と、それによっ て生じる問題を考察 することができる。		
本 時	世界と日本の人口構成 ・世界と比べた日本の 人口構成 ・高齢社会と少子化		「少子高齢化」の 進行理由と、「少子高 齢化社会」の及ぼす 影響について、考察 することができる。	日本の人口ピラミ ッドにおける3つの 類型やその推移から 「日本の人口」に関 する特徴を読み取る ことができる。	
3	かたよる日本の人口 分布 ・日本の人口集中地域 ・日本の過密地域			分布図から過密地 域がどのようなと ころに集中しているか を読み取ることがで きる。	日本の大都市が抱 える共通の問題と解 決の必要性及び解決 策を理解することが できる。
4	かたよる日本の人口 分布 ・日本の過疎地域 ・過疎地域の取り組み と工夫			分布図から過疎地 域が山間部などの不 便な地域であること を読み取ることがで きる。	過疎地域に暮らす 人々のさまざまな新 しい取り組みを理解 することができる。
5	まとめと補充 ・転写法による小単元 のまとめ ・岩手の人口構成	岩手県の人口構成 について意欲的に追 究している。		岩手県の年齢別人 口構成のグラフを、 統計資料をもとに作 成することができる。	単元の目標に関わ る知識を身につけて いる。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

少子高齢化の進行理由と、少子高齢化現象がもたらしている課題を考えることができる。

【社会的な思考・判断】

日本の人口構成の推移から、少子化、高齢化の進行を読み取ることができる。

【資料活用の技能・表現】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体の評価規準		C 努力を要する生徒への指導の手立て	評価場面(方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
社会的な思考・判断	・「少子高齢化」の進行理由と、「少子高齢化社会」の及ぼす影響について考察することができる。	「少子化・高齢化」が進行してきた理由とともに、現代の日本に及ぼしている影響について、自分の考えをまとめ、説明できる。	「少子化・高齢化」が進行してきた理由とともに、現代の日本に及ぼしている影響を理解することができる。	仲間の発言や意見の中で、自分の考えに近いものを参考に考えをまとめるよう指導する。	・学習シートへの記入 ・発言 (観察)
資料活用の技能・表現	・日本の人口ピラミッドにおける3つの類型やその推移から「日本の人口」に関する特徴を読み取ることができる。	日本の人口ピラミッドの類型やその推移から、「少子化・高齢化」が進行していることを読み取り、言語化することができる。	日本の人口ピラミッドの類型やその推移から、「少子化・高齢化」が進行していることを理解することができる。	人口ピラミッドの形が表す意味を確かめさせる。その後、人口ピラミッドから読み取れることを書かせるようにする。	・学習シートへの記入 ・発表 (観察)

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

日本の人口構成の推移から、少子高齢化の進行理由と及ぼす課題について考察することができる。【社会的な思考・判断】

資料から、人口構成についての必要な情報を読み取り活用できる。【資料活用の技能・表現】

イ 定着を図る指導の工夫

前時の学習内容の想起や、内容の定着を促すことをねらいとし、全体で音読をする。

既習内容に関わる反復・ドリル学習を短時間で行い、指導計画の最後に実施する転写法への複線としておく。

資料活用の場面では、読み取りの視点を明確にさせながら取り組ませ、資料活用のスキルを向上させたい。

ウ 動機付けの工夫

生徒一人ひとりの興味・関心、追究意欲が持続・深化していく教材の工夫に努め、その教材の提示の仕方、場の設定などに留意していきたい。

導入場面では、生徒に興味・関心や目的意識をもたせるための工夫が必要となる。知的好奇心を喚起する事象の提示を工夫したい。

展開場面では、机間巡視による観察などを通して、学習活動につまずいている生徒への支援に留意していく。特に、「発問」は時にスモールステップに行っていきたい。また、一人のつぶやきを全体へと広げるための手だてを心がけていきたい。

終末場面では、生徒自身が導き出した結論を大事にしつつ、整理、共有化、自己評価などを通して、概念的知識を確かにさせる活動を工夫したい。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準(評価方法)	研究内容との 関わり
導入 10分	1 前時の確認をする。 2 学習課題を確認する。	具体的数字や地域名を確認させたい。 資料の提示を工夫し、設定する学習課題を概観させたい。 課題は教師側から提示する。 学習内容を明確にさせ「展開場面」へとつなげさせたい。		定着 定着 動機付け
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「日本の人口構成」をみながら、その変化や課題点を探ってみよう。 </div>				
展開 35分	3 人口ピラミッドの見方を確認する。 4 日本の年代別人口ピラミッドを比較し、日本の人口構成の変化を読み取る。 ・読み取ったことを学習シートに記入し、発表する。 5 少子高齢化の進行理由と少子高齢化がもたらす課題を追究する。 ・少子化現象に焦点をあてその理由をつかむ。 ・「各国の年齢別人口構成」及び「人口高齢化の速度の国際比較」の面から確認する。 ・小グループで少子高齢化社会が及ぼす課題を話し合い、発表する。	資料の提示を工夫し、「何を」表しているものか予想を引き出しながら、『年齢別・男女別の構成』が分かることをとらえさせる。 年代の異なる人口ピラミッドの比較から、人口構成の変化をつかませ、「少子化・高齢化」が進んできていることに気付かせたい。 生徒の予想を引き出しながら進めたい。 女性の社会進出、結婚年齢の上昇、育児条件の不備などの社会の変化をとらえさせる。 年少人口、生産年齢人口、高齢人口の割合に特色があることに気付かせ、日本が急速に高齢化が進行していること、及び「高齢者」の定義を確認させたい。 自分なりの言葉で課題が指摘できるようにしていきたい。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【資料活用の技能・表現】</p> <p>A 日本の人口ピラミッドの類型やその推移から、「少子化・高齢化」が進行してきていることを読み取り、言語化することができる。</p> <p>B 日本の人口ピラミッドの類型やその推移から、「少子化・高齢化」が進行してきていることを理解することができる。</p> <p>(学習シートへの記入・発表の観察)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【社会的な思考・判断】</p> <p>A 「少子化・高齢化」が進行してきた理由とともに、現代の日本に及ぼしている影響について、自分の考えをまとめ、説明できる。</p> <p>B 「少子化・高齢化」が進行してきた理由とともに、現代の日本に及ぼしている影響を理解することができる。</p> <p>(学習シートへの記入・発表・行動の観察)</p> </div>	動機付け 定着 基礎・基本 動機付け 定着 基礎・基本 定着 動機付け

	<p>6 演習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口ピラミッドを手がかりに、世界の国々の人口ピラミッドの分類を行う。 ・国によって形は異なるが、分類可能であること、形の違いで人口構成の特色をとらえられること、分類を通して共通点を見出すことが可能であることを確認する。 	<p>形が類似する国があり、分類可能であることに気付かせたい。</p> <p>共通点については、先進国、発展途上国、ヨーロッパ、アジア等の語句でまとめる。</p>		
終 結	<p>7 まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口ピラミッドから分かることと、現代の「日本の人口」についてまとめる。 			定着
	<ul style="list-style-type: none"> ・人口ピラミッドからは、「年齢別・男女別の人口構成」が分かる。 ・日本の人口構成の推移から、「少子化・高齢化」が進行してきていることが分かる。 ・少子高齢化の進行理由が分かり、もたらしている課題に気付く。 			
5 分	<p>8 次時の予告</p>	<p>「日本の年齢別人口構成は、どの地域でも同じだろうか。」と問いかけ、次時につなげる。</p>		動機付け